

開成の杜

第72号 ● 2006年12月20日 ● 郡山女子大学大学院 ● 郡山女子大学 ● 郡山女子大学短期大学部 ● 郡山女子大学附属高等学校 ● 郡山女子大学附属幼稚園

● 発行所 / 学校法人郡山開成学園 〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎ 024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ● 発行人 / 学園長 関口富左

創立60周年記念第3号



移りゆく時…緑も朱も…

(撮影 教授・武井玲子)

創立六十周年式典は、平成十八年十月二十四日、雨の潤いを享けつつ、無事に遂行いたしました。文部科学省代表の方を始めとして、関係各省庁等指導者、並びに御厚誼を戴いている大学・高校の諸先輩各位、加えて友好関係のアメリカ合衆国大学の友人方。身内ともいえる家族会、同窓会、旧教職員、五百余名を超える御来賓をお迎えし、本学大学院・大学・短大・高校の学生・生徒一同、教職員全員。記念講堂を中心とし、同時に各大教室に映像配信システムを設備し、全学生・生徒と共に式典の時を持ったことは、悦ばしくも充実の時でありました。

学の充実、諸施設の完備等は、悦びの内に秘め、六十年間の思いは、今ここにそれなりの時を得ることで、学園一同深く感謝を基に、敬虔な思いに潤うことが出来たといえましょう。

また一方、記念の芸術鑑賞講座(第百五十三回)は、日本古来の雅楽(東儀兼彦氏、元宮内庁式部職楽部首席楽長御一行の、優雅にして深遠な音色に身も心も包まれて、陶酔に浸る内、奏者方は静かに雅楽でわが学園校歌のメロディーを奏でて下さったことは、また一段と心深く、親しみと優しさの喜び一入で、忘れ得ぬ心の糧として学生一同は殊の外感激に浸ったことであります。

さて、本学は創立以来、知の探



学園長 関口富左

“教育の内に”

究と美への協調を基として、広やかに求める良質の芸術鑑賞も継続してきました。教育とは、教師と学生・生徒との関連はいうまでもなく、知の授与、愛の配慮等、教育行為の本質的方法として六十年を閲してきました。しかし、今や教育が物象傾向化し、利を求め、殺伐ともいえる危機の傾向がなきにしもあらず、ではないでしょうか。各地に不穏な状況が現出するなどの類例を知るのは、食の不安定時は別としても、身の尊さを安易に扱い、生命を自ずから絶つの実態などは……。

これこそ教育と、社会の風潮に狂いが生じつつあるといえるのではないのでしょうか。何故、なぜ、かかる事実が頻発し、上層部が直接該当者に支援の言葉を以て文面を送るなど、わが国初めての行為ではないのでしょうか。われら教育に携わる者の深い反省を基にし、直接の責任者としての親、教育者の愛の対応と、真の責務にと欠く結果でありましょうか……。

「教育は、愛なり」と述べているペスタロッチの言を求めずも、この語は、教育者の熟知に於いて、日常教育に携わる者の本質的行為の内にあると見ていますに……。

今や、教育行為も物象化し、知への理解も、その対応も、単に競争的領域に意味を求めるこの状況は、恐るべき傾向であります。

本来、教育は愛の行為であり、このことは、親子の内から愛の芽生えを生じさせることであります。敗戦後における日本は個の充実を強調し、個を物象化へと変えた……。

「知は、感性の庭に咲く」と。なお、「教育は愛なり」と……。愛なき知は、凶器ともなりうる……。

(師走の声をききつつ)

尊敬・責任・自由の建学の精神をもって新たな決意
更なる発展へ心ひとつにー

学園創立60周年を 祝う記念式典 挙行



荒涼たる安積平野に開拓の鍬が入れられ、郡山の発展につながった歴史的開成の杜に昭和二十二年礎を定めた学校法人郡山開成学園が今、創立六十年の輝かしき年を迎えた。十月二十四日、北海道から九州そしてハワイから来賓をお迎えして盛大に記念式典を挙行了。学生、生徒、園児、教職員一同はさらに本学園の充実、発展に向けて全力を尽くすことを誓った。

私立中学高等学校連合会常任顧問堀越克明氏。郡山開成学園家族会長金澤裕氏。同OB会長・市議会議員渡辺隆弘氏。郡山女子大学短期大学部同窓会長安斉悦子氏。

感謝状贈呈の方々

「書」を寄贈された短期大学家政科第一回卒業生及川喜美枝「秀峰」氏。学園発展に尽くされた家族会長金澤裕氏。学園応援団としての家族会OB会長渡辺隆弘氏。部活動の支えとなった附属高等学校部活動後援会長横井浩氏。学園の発展に物心両面で尽くした郡山女子大学同窓会長名倉美恵子氏。同短期大学部

同窓会長安斉悦子氏。同附属高等学校同窓会長佐藤廣子氏の七名に開成学園長より感謝状が贈られた。

声を合わせて 記念歌を高らかに

教職員が袖舞台に並び、学生生徒よ健やかに育て…と若者讃歌「吾子よ」を合唱。これを受けて学生生徒が応答歌「青春の確かさを」今」と続き、最期は全員による大合唱が式場一杯に響き渡った。学園を共にする親子の絆が深まる感動の輪が式場を包んだ。

さて学園在籍数は大学院八名。大学四百九十名。短期大学部九百二

誓いのことば

式典の結びは学生、生徒、教職員による「誓いのことば」。壇上には、大学院多田恵里さん、大学生代表佐久間茜さん、短期大学生代表星奈菜さん、附属高校代表馬場侑里さん、附属幼稚園代表難波文宏さん、松本花音さん、そして教職員を代表して石村由美子短期大学部教授が並び、代表が「誓いのことば」を述べた。

「私学の持つ使命は建学の精神や理念に基づいた特色ある教育の実現を図り、研究の成果を広く社会に還元すると共に、より高い知識と優れた技術を身につけた感性豊かな人間を育成することであると考えます。教育の本質は不変なものであり、学園長先生の高い理想のもとにこれまで進められてきた郡山開成学園としての個性ある教育を若い世代に継承してゆくことが私たち教職員の務めであると思っています。この六十年を節目にさらに本学園の充実発展に向け決意を新たに、全力を尽くして職務に励むことを約束します」

雨の中で 学生頑張る

式典当日は風雨。悪コンディションの中で各持場に配置された学生、教職員は来賓のお出迎えに細心の気配りをみせた。特に、案内係は来賓や招待者の到着と同時に車に駆け寄り、傘を差し出して雨に濡れるのを防ぎ、受付まで誘導した。また、会場までの廊下では擦れ違う来賓一人ひとりに「いらっしゃいませ」と係以外の学生が声をかけ、「おめでとう」といわれると「ありがとうございます」と応え、客を迎える感謝の気持ちを伝えた。来賓のひとりはその気配りに感動し「素晴らしい教育がなされている。学生が輝いて見えた」と感想を寄せた。



式典に引き続いて行われた祝賀会



60年の思いを述べる関口学園長

式典は郡山開成学園オーケストラによる式典序曲「大空へ」の演奏で始まった。初めに、学園の創設者であり、教育学博士の関口富左学園長が式辞を述べ「教職員の精一杯の努力と卒業生の活躍、それにもまして政治、経済に携わる諸先輩、地域の方々

のお力添えにより本日まで歩んできた。感謝以上の気持ちで御礼を申し上げたい」と来賓席を埋めた約五百名と、学生、生徒、教職員千七百名の前で深々と一礼した。次いで教育方針にふれ「知を、点数を求める余り情の教育が置き去りにされている。本学園は当初から感動の教育を進め「知は、感性の庭に咲く」の標語を学内へ伝播した。今後も知性と感性の融和した良き女子教育をすすめていきたい」と述べた。

続いて関口修理理事長が挨拶、六十年の学園の歩みを紹介したあと、「建学の精神を堅持しつつ、培われた特色を発揮しながら、「こころの故郷」とわが学園を誇りに思えるよう、努力したい」と節目の決意を述べた。式典は花文字でKGCと飾られた建学記念講堂の舞台上で進めら



拡充発展を誓う関口理事長

れた。学園の発展に功績のあった七名に感謝状が贈られたあと、来賓祝辞があり、次の方々からお言葉をいただいた。

文部科学省高等教育局私学部参事官安藤慶明氏。日本私立学校振興・共済事業団理事長井孝介氏。福島県総務部文書管財領域総括参事野仲介氏。郡山市長原正夫氏。日本

学生、生徒、園児を代表して短期大学部保育科「年星奈菜さん」。「創立六十周年を記念する年にこの学園に在学できたことを嬉しく思います。私たちは人間の善を基底とし、各人固有の特性の充実を図るといふ本学の教育理念のもとで、一人ひとりの特性を伸ばし、豊かな感性を育む特色ある教育を受け「個の確立」と他との協調」を目標に励んでいます。学園長先生を始め諸先生方、先輩の皆さんが築き上げてきた学園を益々発展させることを約束します」



誓いのことばを述べる代表



白川氏の解説で見学する学園長

席上挨拶した白川氏は「世界百名山」の撮影意図を話され「神々が宿る世界名峰を通して、自然とは何か、

初日の十月十九日は、白川義員氏をお迎えして開場式を行い、紅白のテープに鉄を入れて写真展の開催祝った。

第百五十二回芸術鑑賞講座は、学園創立六十周年を祝って世界的写真家白川義員氏の地球再発見シリーズ「世界百名山」の写真展を開催した。

無料一般公開した十一日間は県内外から訪れたのべ二千名の写真愛好者で大賑わいだった。

会場となった建学記念講堂ギャラリーとホワイエには著名な百二十七山から白川氏自らが厳選した七十二山を展示した。

七千八百メートルの山々を空中からあらゆる角度で収め、神々の目覚めや眠りへの表情を見事に捉えた入魂の一枚一枚が鑑賞者のところを揺さぶり、足を止めた。



地球破壊の愚行を警告する白川氏

平成十八年度第二回の教養講座は、「写真展世界百名山」を開催中の白川義員氏を講師に迎えた。ライフワークである「自然再発見による人間性回復」をテーマに世界百名山をスライドで紹介しながら講演した。

白川氏は「宇宙は広い。その中で地球は一点の芥子粒ほどの小さな存在だ。全人類はこの一点の命である宇宙船「地球号」に乗り合せている。運命共同体を認識する

れば民族紛争、国境戦争など起こるはずがない。しかし、自然破壊は進み戦争はなくなる。猿人が人間に変わった時、そこに神の存在を見る。人間は何かの存在があつて生かされているのだ。それが神だ。その神々が宿る山々（自然）を世界に紹介することで地球号をいかに守るかという精神革命を世界に訴えた。このままでは人類は滅亡する」と熱く語り、人間の愚行を警告した。

講師 写真家白川義員氏

教養講座「自然再発見による人間性回復へ」

講座

講師 写真家白川義員氏

創立六十周年を祝って 第百五十二回芸術鑑賞講座 白川義員写真展／世界百名山

一般にも公開

創立六十周年記念事業としてかねてから検討されていた「食生活・栄養研究所」（関口富左所長）が十月三十日開設された。

管理栄養士が十六人、調理師六人が勤務しており、蓄積された研究成果・体験を地域へ還元しようというのが目的。



開設を告知するポスター

校食物科、栄養士とフードスペシャリスト養成の短大食物栄養専攻、栄養士と管理栄養士養成の大学食物栄養学科があり実績を残している。教職員の中には



相談に訪れた市民

も業務としており、一般市民が気軽に相談できるように正門に近い62年館二階に特設された。サロン風の応接室と対面相談コーナー。それに職員の研究・ミーティング室に分かれている。

相談窓口にはこどもの食事で悩んでいた母親やご夫婦で訪れた高齢者もいた。相談内容は自分の「食生活の確認」で適性かどうかの質問が多かった。中には糖尿病予備軍の方がおり、食品の摂取量を示した表を参考に改善策を助言した。



和楽器によるオーケストラ演奏で日本古来の旋律を鑑賞した

学園創立六十周年式典が挙行された十月二十四日午後、二回にわたり東京雅楽アンサンブルが出演、古式に則った格調ある宮廷音楽を披露した。

名曲「越天楽」演奏のあと和楽器の紹介があり、羯鼓、箏、琵琶、龍笛、笙、箏、篳篥等の古来の「旋律」をわかりやすく説明した。



記念出版された学園史(左)と開成の杜・総集編

「学園史」は十年毎に出版しているが、今回は第一編を沿革とこの十年の歩みを重点的に記録し、第二編は社会人として活躍している卒業生による座談会「学園と社会」が収録されている。全七百四十九ページ。学園報の「開成の杜」は昭和五十七年の創刊号から本年春の七十号までを一冊にした。折々の学園の姿が読み取れる。言わば学園の側面史。

祝・創立六十周年 第百五十三回芸術鑑賞講座 「雅楽―この妙なる調べ― 雅びの世界へ」

第百五十三回芸術鑑賞講座は、雅びの世界へ誘う「雅楽―この妙なる調べ―」が東儀兼彦氏（元宮内庁式部職楽部首席楽長）をゲストに迎えて開催された。

学園史と開成の杜 総集編を記念出版 創立六十周年を記念して、六十年の歩みを記録した「学園史」と学園報「開成の杜・総集編」を出版した。（非売品）

大学院・大学・短大

人間守護の理念を基として考える

【大学院】

「地球温暖化と人間の生存・生活。地球温暖化の背景を探り、その現状と問題性、対策を考えた。」



地球温暖化をパネルで訴える

【家政学部 食物栄養学科】

「健康で豊かな食生活の実施に向けてをテーマに、「食育」をとり上げて「食」の正しい選択を指導。」



管理栄養士をめざす学生が栄養相談と診断

【家政学部 人間生活学科】

統一テーマ「生活に創造を求めて。」

☆生活総合コース 今日の家
族事件と家庭、家族のあり方。
☆福祉コース 高齢者の介護
予防。
☆建築デザインコース 「緑」
の住空間の創造について発表
した。

☆生活総合コース 今日の家
族事件と家庭、家族のあり方。
☆福祉コース 高齢者の介護
予防。
☆建築デザインコース 「緑」
の住空間の創造について発表
した。



緑をテーマに住生活での効果を考察した建築デザインコース

【レストランもみじ】

食物栄養学科と短大食物栄養専攻が合同で開設。調理実習、集団給食実習として地産産の素材を使い、郷土色豊かなメニューが並ぶ。



旬の素材を生かした秋彩弁当

【家政科福祉情報専攻】

「新しい家庭生活をめざして」をテーマに、手芸、染色、パソコンの実技講習を行い、手作り菓子や手芸小物を販売した。



ケーキは早々と売り切れ

自然を凝視めて新たな学を

9月30日・10月1日開催

学園のもみじにあやかり、日常の研究、学習の成果を発表、展示。地域と結ぶ2日間をルポした。



60回を記念して今年のポスターは4点が採用された。



ポスターデザイン
生活芸術科2年 大野由希江

ポスターデザイン
生活芸術科2年 佐久間香織

ポスターデザイン
生活芸術科2年 渡辺三起子

ポスターデザイン
生活芸術科2年 三坂 知子

【文化学科】

テーマの「食が育む文化と歴史」を様々な角度から考え、パネル展示で発表した。



最後の晩餐の図像学

【学友会】

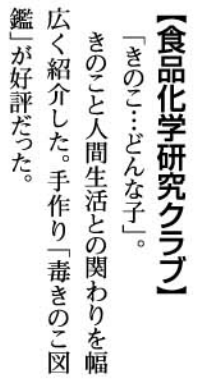
学友会は、茶道、食品化学研究、スキー、フットボール、モダンダンス研究、ダンス、手芸、タッチットボール、手話、スポーツ栄養研究のナクラブが活動の発表・展示を行った。



いも 掘ったよ

【食品化学研究クラブ】

「きのこ・どんな子」きのこ人間生活と関わりを幅広く紹介した。手作り「毒きのこ図鑑」が好評だった。



きのこづくし

【高齡者招待会】

訪問介護員養成研修講座で学ぶ学生が中心となり、市内の福祉施設の高齡者を招待した。交流を通して福祉への意識を高めた。



心温まる助言をいただいた

環境委員会

循環型社会を目指す本学園の環境対策を提示。生ゴミゼロエミッションをパネルで発表。



見学者参加型の啓蒙

同窓会

大学・短大・高校の三同窓会が合同で企画した「同窓会館設立のためのバザー」。



会員が持ち寄った物品のバザー

響け足音開成に

学園オリンピック——学生、生徒、園児、教職員それぞれに家族会、同窓会が、九月十七日の当日はあいにくの雨。グラウンドでの全大会は中止となり、大学と短大が体育館で球技大会を行った。



室内競技で汗流す

【茶道クラブ】

慎思庵にて六茶席。お点前披露。



一期一会

フットボール部 モダンダンス研究同好会



スイングしましょ

ご招待

訪問介護員養成研修講座で学ぶ学生が中心となり、市内の福祉施設の高齡者を招待した。交流を通して福祉への意識を高めた。



学生の案内で各会場を見学する招待者

【郡山市婦人会会長招待】

本学の女子教育の理解を深めていただくと共に同性の先輩からご指導をいただいた。



心温まる助言をいただいた

附属高等学校

六教科や学年組展、生徒会(部活動)十八ハートで成果発表され、充実した内容が注目された。



2万本の楊枝を使った努力の結晶

第三学年十一クラス三百五十名が制作した見事なビジュアルアート。タイトルは「60年の時を超え、今、伝えたい」——One for All, All for One——実行委員長の大和田田香さんは「楊枝による点描画は非常に難しく、放課後遅くまでかかって制作した。六十年の伝統を後輩へしっかり伝えたいという思いを込めて丁寧に創り上げた。特に人物や立体的な仕上げ

【第二学年普通科人文文学系コース生活総合系】

「人生80年の時代をすこやかに生きる」。



事前学習の結果を展示



家庭看護の授業再現

【食物科】

「どんぐり食堂」集団調理実習の成果を示した。



真剣に注文をさばく生徒連

生徒会

十七部が活動の成果を発表、公開練習で実力を示した。



10回目を迎えた決勝戦



マーチングの楽しさを伝える

【生徒会・マーチングバンド部】

全国大会出場おめでとう。



技を磨く

【生徒会・弓道部】

県内の女子弓道部員招待。



気迫の実技風景

【生徒会・剣道部】

試合と審判法を研究する。



学生にとっては貴重な発表の場



頭像は学生が互いにモデルに

【生活芸術科】グラフィックデザイン、絵画、彫刻、工芸、コンピュータグラフィックス、近代詩文書、茶道(略盆点)等九部門で作品発表。



おもちゃ作りに熱中する子供達

【保育科】

見る、聞く、作る、考える、遊ぶの五つをテーマに表現と参加型展示でこどもの世界を構成した。



行列の出る骨量測定

【生徒会・新体操部】2006 美の表現を目指して「夢と情熱」。



華麗なる演技披露

【大人のバザー】

子どもたちへのプレゼント。



リサイクルで作った玩具を販売



やなぎ組、まつ組の展示

【ぼくたち、わたしたちの作品展】好きな絵や想像画の数々という様々な素材で制作した作品。



附属幼稚園



13の中学校が参加、熱戦を繰り広げた

【生徒会・バスケットボール部】

第二十三回学校長杯大会を開催。白河中央中学校が優勝した。



13の中学校が参加、熱戦を繰り広げた

ティールーム

コミュニケーション・フォーラム



孫と愛犬

江藤 正良

今年六月初旬、オーストラリアのパースに住んでいる長女が、子供と一緒に一年振りに里帰りした。

孫の名は「ブリジット」。一歳九ヶ月の女の子である。我が家の愛犬の名は「あとむ」。三歳のミニチュアダックスフンドである。孫は約一ヶ月間我が家においてオーストラリアに帰っていった。

我が家滞在時の孫と愛犬の様子を思い出すと楽しくもあり懐かしきもある。ブリジットは日本語も英語もまだほとんど話せないが、マミーとかノーとかの片言は言う。私が学校から帰って来るとブリジットは玄関に一目散に走ってくる。あとむも一緒に走って走ってくる。ソファに座るとブリジットは私の膝に腰掛ける。するとあとむも一緒に膝に乗ってくる。私がお菓子を食べっていると、あとむが



ブリジットとあとむ

おねだりの仕草をする。その様子を見てブリジットが傍に来てお菓子を欲しがらる。まさに孫が二人いる状態である。私はできる限り、可愛がり方に差をつけない様に接する。

競い合っているようにも思えるが、しかしブリジットとあとむは大の仲好しである。ブリジットが行くところに常についていく。ブリジットもあとむがいないと、「あと」「あと」と名前を呼び探す。あとむの名前はすぐに覚え呼べるようになった。微笑ましい限りである。

私は滞在中に二つのことをブリジットに覚えさせたいと思った。一つは仏壇を拜むこと。もう一つは私のことをおじいちゃんと呼ぶことである。私は毎朝仏壇に手を合わせる。その時にお鈴を鳴らす。ブリジットはお鈴を鳴らすことが面白いとみえ、私の真似をしてお鈴を鳴らし、手を合わせる。おじいちゃんに関しては何度も教えたが、発音として難しいせい、残念ながら言わなかった。しかしおじいちゃんとは私のことであることは覚えた。まあそれで満足とする。

(就職部長)

大学院修了を

目前にして思いつくこと

佐原 暁子

大学院修了を三ヶ月後に控え、私の頭の中は修士論文の仕上げをする。一杯です。私の研究は福島県内産の農産物を原材料としたナタデココ様産物を作り出し、その加工食品を開発することにあります。ナタデココはフィリピンが原産地で、コ



ナタデココの研究発表パネルの前に筆者

コナツミルクを原材料として作られています。現在までに微生物を用いてナタデココ様産物を作ることに成功し、今は果汁や乳製品を原料とする。今を目的に研究を進めています。更に、その応用としてハンバーグ、ウインナーソーセージ、クッキーなども視野に入れております。

修士課程に入学以来、毎日夜遅くまで研究室に残り家と大学との往復ですが、学部では経験できなかった様々な体験をいたしました。例えば、外部機関での研究発表、ナタデココの企業化に成功している工場見学などでありました。

来春からは職場に新天地を求めますが、修士の二年間の経験を生かされたいと思っております。

日本は今、中、高校生のいじめから来る自殺が社会問題化しています。このような社会の荒波の中に出ることは不安もありますが、修士課程の二年間で培った根性を基にして、「負けないぞ」の意気込みを持ち続けたと考えている今日この頃です。

(大学院修士課程二年)

私と部活動

小林 由喜



筆者

私の高校生活、それは、ただひたすら歌に情熱を傾ける生活でした。高校に入学してすぐ、「全国大会出場」

を目標に音楽部に入部しました。

一、二年の時は目標に今一歩及ばず、悔しい結果となりました。三年になり部長を任せられた私がいよいよ最初にしたことは、必死の部員集めでした。福島県でも合唱人口は減少傾向にあつて、本校でもなかなか部員が集まりませんでした。それでも「聴いてくださる人に感動が伝わる演奏」を目標に今年度のスタートを切りました。

一人ひとりの力を引き出し、部をまとめていくことは、私には難しいことでした。何度も失敗を繰り返しながらも、部員同士が協力し合い練習に励みました。

県大会、東北支部大会と自分達にとつて最良の演奏をすることができ、その結果全国大会へとつながりました。全国大会では大きなステージで、やはり最良の演奏をすることができました。

「金賞」という結果は部員全員で得た結果でした。真面目につとめ取り組むこと。誠実に練習に臨むこと。何よりも歌は「こころ」で歌うことを教えて下さった顧問の先生に感謝しています。

有難うございました。

(附属高等学校三年)

私の本棚

望月郁子著

『源氏物語は読めて

いるのか 末世における

皇統の血の堅持と女人往生』

笠間書院

郡山女子大学附属高等学校教諭

難波 宏彰

平安時代の文学作品である『源氏物語』は、現代において様々な現代語訳、そしてマンガ等に描かれ私たちの生活の中でも身近な存在になっている。

最近の日本では、健康志向が高まり、健康食品やサプリメントが広く利用されるようになりました。健康食品とは、健康に何らかの良効果が期待される食品のことをいいますが、国が認めている二種類の保健機能食品(特定保健用食品と栄養機能食品)以外には、行政的に明確な定義や基準はなく、また、健康によい

などの保健機能を表示することは禁じられています。したがって、市販のいわゆる健康食品には、有効と思われる成分がほとんど含まれていないものや、有害物質あるいは医薬品に該当する物質が含まれていることがあり、とくにダイエット用食品では、健康被害を起こした例があります。

疾病と食物摂取の因果関係についての研究を「疫学」といいますが、多くの疫学研究により、緑黄色野菜を摂取すると、各種のがんになりにくいという結果が示されています。

生活診断室

シリーズ 39

豊かな栄養は食べ物から

郡山女子大学 教授 藤本 健四郎

ました。また、サプリメントは、食品と比べて特定の成分を大幅に濃縮できるので過剰摂取の害も起こることがあります。こうした例には、大豆イソフラボンがあります。これらの事例は、安易にサプリメントを使用するよりは、栄養素は食品から摂ることの重要性を示しています。

ます。この有効成分としてβ-カロテンが注目を受け、β-カロテンをたくさん食物から摂取することは難しいので、凝縮したサプリメントが勧められたことがありました。しかし、数万人の被験者にβ-カロテンを投与して数年にわたってがんの発生を調べた大掛かりな介入試験は、いずれもβ-カロテンの投与はがんの発生を抑えないばかりか、喫煙者では肺がんが増したという予想外の結果を示しました。有効と思われる食品そのものの効果がない場合があることが分りました。

私も学生時代、中世和歌文学を専攻していたため『源氏物語』は避けては通ることができない一人であった。そのため、様々な現代語訳の本は勿論のことマンガに至るまで多くの『源氏物語』を読みあさったものである。その『源氏物語』は、常に雅やかで華やかな恋を基軸とした、平安王朝文化を光の糸で紡いだものであった。

『源氏物語』は、華やかな恋物語。多くの現代語訳の上では、そういうイメージを誰しもがもつてあろう。それは事実である。しかし、青表紙本(定家本)といわれるような、いわゆる『源氏物語』

の原文をたどりだすと、少しずつずれが生じてくるのである。そして、そのずれは大きく広がります。いざ平安王朝の世界とは異質の現代的孤独な世界とも相通するものが現れてくることも見逃せない。『源氏物語』は本当に華やかな世界なのだろうか」と、折々に疑問が湧いてきたものである。

本書と、私はこの点で共感できました。固定化されたイメージに囚われず素直に言葉を読み取ること。そして、文章読解で重要な、作者がなぜこの文章を書くに至ったのかという事を再認識させてくれたとびきりの一冊である。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を聴取し、重要な決済書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する事実はないことを確認しました。以上

おめでとう金賞

附属
高等学校
音楽部

全日本合唱コンクールで念願の入賞

本校音楽部は、十月二十八日にさいたま市の大宮ソニックシティ大ホールで開催された第五十九回全日本合唱コンクール全国大会に東北代表として出場し、見事金賞を受賞した。三年ぶり二回目の出場で射止めた「金賞」である。



念願の金賞入賞を果たした音楽部(写真提供:福島民友新聞社)

今年度は高等学校部門Aグループ(三十二人以下)で出場した。課題曲「明日のりん」から「緑の中へ」と自由曲「無伴奏女声合唱組曲『浮舟』」源氏物語の和歌による「から」句宮」を堂々と歌い上げた。二千五百名収容の大ホールに臆することなく、本校音楽部伝統の一つである艶のある美しい声にも一層磨きがかかり、完璧な仕上がりをみせた。

演奏終了後の部員、指揮の松崎洋子教諭、ピアノの横溝聡子教諭の表情には、最高の演技ができたという充実感と満足感があふれていた。おめでとう。

祝・学園創立六十周年 第百五十四回芸術鑑賞講座

「チェコ・プラハ管弦楽団演奏会」

学園創立六十周年を祝った第百五十四回芸術鑑賞講座は弦の国から訪れた「チェコ・プラハ管弦楽団」。十一月二十一日と二十二日の二日間、建学記念講堂大ホールで演奏した。常任指揮者の武藤英明氏がタクトを振りモーツァルトの交響曲「ジプシー」ドヴォルザークの「ワルツ」と「スラブ舞曲」そしてベートーヴェンの交響曲第六番「田園」を披露した。



一流の演奏で60周年を祝ったチェコ・プラハ管弦楽団

実り多き修学旅行

附属高等学校

今年の本校二年生の修学旅行は十月十六日から二十日まで五コースに分かれて行われた。

沖縄班は戦争の一端を肌で感じ、自然の美しさと人々の人情に触れ、ビーチでのマリンスポーツを体験した。広島班は原爆ドームで被爆体験談を聞き、平和の尊さをかみしめた。奈良・京都班はスケッチ研修やピアノリサイタル鑑賞で専門性を深めた。関西・九州班は普茶料理、卓袱料理などの食文化を学び、今後の専門学習につなげることができた。見聞を広め、お互いの友情を深め信頼関係を築いた実り多い旅行であった。



首里城を見学する沖縄班

祝 学園創立六十周年 第百五十一回芸術鑑賞講座

「学園美術系教職員作品展」

短期大学部に生活芸術科が開設されてから五十年、附属高校に美術科が設置されてから四十九年。その間、本学園は二千五百人を超える美術系卒業生を輩出している。

その芸術文化教育を支え、発展充実に尽くされた歴代の美術系教職員の作品と現在勤務中の先生方の作品展示で創立六十周年を祝う「学園美術系教職員作品展」が九月二十六日から六日間、建学記念講堂ギャラリーで開催された。

故人となられた飛田昭喬先生、安藤重春先生、鎌田正蔵先生の作品を始め、退職された先生方の作品と在任の先生方からの出展作品が三十



恩師の作品に学生時代を思い出している卒業生

二点。郡山市立美術館やご親族のご協力を得て実現した。本園での幅広い美術系教員の存在を示した美術展であった。



わが子の作品を探している親子

ぼくとわたしの作品展

附属幼稚園

第十三回を迎えた附属幼稚園の「ぼくとわたしの作品展」は十一月二十一日から三十日まで建学記念講堂ギャラリーで開催された。

展示作品は年長組六十一人、年中組七十六人、年少組四十七人の計百八十四点。一人ひとりの子ども達が個性豊かな作品を生み出し、絵の具やクレヨンを使つてのびのびと表現した。

本学所蔵 紙上美術展 51

「上村松園作品展」



「序の舞」

女性の理想像を描き続けた上村松園の作品二十五点を展示した美術展が、創立六十周年を記念して本学創学館のネーチャードーム回廊美術館で開かれている。

「序の舞」を始め、美人画の数々は、女性たちの日常のさりげない表情や所作が美しく描かれている。

「一点の汚れもない女性を描きたい」(解説:上村浮彦氏)という作者の思いが伝わる作品ばかりだ。

本学所蔵作品としては初公開となる。

木もれ陽

家庭や教育現場で、いじめ・虐待・自殺というこの世の終わりのような陰惨な事態が起こっている今日、私たちは何を以て気持ちを一層強めておかなければならないのであろうか。それは、人間性に対する敬虔な気持ちの持続であろうか。では、この敬虔な気持ちをどのようにして養うのか。古典に触れることで養うことが出来るはずである。英国の詩人ウィリアム・ワーズワース作「抒情歌謡集」は一八〇二年に著されたが、その序文は世界文学の詩論の筆頭に挙げられるほどの文章であると言われ、例えばそこには「アリストテレスは、

詩はあらゆる著作の中で最も哲学的であると云っているが、その通りであり、詩は人間と自然の写しである。詩人は人間性を守る者であり、何処にでも親密と愛情をたずさえて訪れる人間性の守護者である。」とある。日本にもこれに優るほどの歌論がある。遥かに遡ること九〇五頃に成った「古今和歌集」序文であるが、「やまと歌は、人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける」で始まる一連の文章も又、生きとし生けるものの命の尊さを語るものとなっている。

今日自分がここに在るのも、古きものが静かに支えてくれているからに相違ない。

(均)